

「小樽市ふるさとまちづくり協働事業」 事業報告書

団 体 名	高島子ども盆踊り大会実行委員会		
事 業 名	高島子ども盆踊り大会		
実施期間	2024年8月16日～18日		
事業の目的及び期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> ・高島地区で伝統的に踊られている高島越後踊りを後世に継承していくために、子ども盆踊り唄、潮音頭、潮踊り唄などの子どもたちに身近な踊りの事業を実施。 ・その中で、高島越後踊り保存会の皆さんと越後踊りを踊ることで、伝統的な踊りに触れ合ってもらおう。 ・これらを通じて高島地域を盛り上げていく。 		
実施額	事業費	658,880円	助成額 300,000円
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各日の大まかなスケジュール 16:00～16:20 潮まつりの踊り、10分間の休憩中にくじを配布、 16:30～16:50 子ども盆踊り唄、10分間の休憩中にくじを配布、 17:00～17:20 高島越後盆踊り、10分間の休憩中にくじを配布、 17:30～17:50 子どもの要望に合わせた踊り、10分間の休憩中にくじを配布、 18:00～18:15 大抽選会 		

○事業の内容が分かる「資料やチラシ等」がありましたら添付してください

◎事業の日程について

月日	内容	想定事業効果 (参加人数等)	事業効果 (実績)
	別紙チラシのとおり		

◎事業評価について

1. 事業の目的の達成度

(前ページに記載した「事業の目的」を達成することができたかどうか、反省点等も含め具体的に記入すること)

・各日の大まかなスケジュール

16:00～16:20 潮まつりの踊り、10分間の休憩中にくじを配布、

16:30～16:50 子ども盆踊り唄、10分間の休憩中にくじを配布、

17:00～17:20 高島越後盆踊り、10分間の休憩中にくじを配布、

17:30～17:50 子どもの要望に合わせた踊り、10分間の休憩中にくじを配布、

18:00～18:15 大抽選会

・子どもの来場数(配布したくじの枚数から)

16日約150名(配布したくじの枚数約400枚)

17日約250名(配布したくじの枚数約600枚)

18日約300名(配布したくじの枚数約700枚)

・高島子ども盆踊りのチラシは市内全小中学校に配布したので、参加できずとも、事業が行われていることの認知は広げられた。

・これまでは飲食や物販はなかったが、子どもが楽しめるゲームコーナーや、17日、18日からは、抽選会の終了後に来場した全ての子どもにかき氷を無料で配布した。

・子ども盆踊り唄や高島越後踊りでは、櫓に上がって、太鼓を叩く体験(横で叩く大人の様子を見ながら自由に叩く)をした子どもが連日50名以上いた。今後、太鼓の練習会などを事前に行っただけで事業を実施すれば、目的がより達成されると考える。

・くじを複数回に分けて配布したことで、16時から参加してくれる子どもが多かった。

・18:30～同会場で高島越後盆踊りが行われるが、子どもたちの多くが、抽選会終了後に帰宅してしまうため、連続性をどの様にもたせるのかが課題になる。

・来年度以降も実施してほしい旨の声が寄せられているため、実施を模索している。

2. 事業の効果(参加人数の面から)

(実績の参加人数は想定した人数の何パーセントだったか) ※実績数÷想定数で計算

参加人数は特に想定していないが、各日最大300名を基本とし、それ以上の来場があっても、くじの配布枚数を追加して対応した。

・子どもの来場数(配布したくじの枚数から)

16日約150名(用意くじ枚数500枚、配布くじ枚数約400枚)

17日約250名(用意くじ枚数700枚、配布くじ枚数約600枚)

18日約300名(用意くじ枚数800枚、配布くじ枚数約800枚)

(上記の割合となった理由や上記の割合に対する自己評価などを記入すること)

・金曜日は子どもも大人も来場が少なかったが、例年行われている高島越後盆踊りも金曜日の来場は少ないため、想定内の人数であった。

- ・くじの景品は特賞の任天堂 Switch 以外に、特に公表していなかったもので、金曜日に参加した子どもの口コミで、土曜日、日曜日の参加者が増えていった。
- ・くじを貰うときだけ踊りに来る子どもを防ぐために、適宜マイクでアナウンスを行うことで、常時子どもが踊っている空間を作ることができた。

3. 参加した方々や、周辺の方々の満足度

(アンケートや聞き取り等によって把握した参加者の感想や反応を記入すること) ※別紙による提出も可

- ・盆踊りは踊り終わったらお菓子などの粗品を最後に貰って帰る場合が多いが、今回は各日2時間でしっかり踊ってもらうこと、高島越後踊りに親しんでもらうことを想定し、これまで参加したことのない子どもにも興味を持ってもらうため、時間ごとにくじを配布し、いくつかの豪華景品を用意し、全員に粗品を渡すことはしない形式にした。しかし、初日にくじに当たらなかった子どもの中には悔しくて泣き出したり、何も当たらないのは可愛そうだとクレームを入れる保護者が多数いたため、二日目からは参加賞としてかき氷を提供した。
- ・豪華景品によって多くの来場者を見込んでいたが、想定よりは少なかったため、高額景品が少数に当たるより、小額景品が多数に当たるほうが、子どもの来場につながる事がわかった。
- ・例年の高島越後盆踊りは椅子やテーブルをさほど設置していないが、今回は多数用意したため来場者に喜ばれた。

4. 今後の事業について

(1～3に記入した、事業の達成度・効果・満足度を踏まえ、来年度以降はどのような事業を行っていく予定か、記入すること)

- ・高島越後踊り保存会や高島町内会と連携し、地域イベントとして確立し、伝統振興や賑い空間として定着させたい。
- ・地域の子どもや若手も実行委員会に入り、みんなで作り上げるイベントにしたい。